

ロシア語の勉強を始めて間もなくコロナになり足止めを食いましたが、2024年5月のゴールデンウィークで念願の中央アジア旅行を実現できました。最初は国際情勢と円安のニュースが飛び交う中で多少の不安がありつつ、35歳という節目の年で悔いのない人生を送りたい! 30代前半の最後に1回大冒険をしてみたい! という気持ちで、半衝動買いでアルマトイへの往復航空券を購入した時には、後に一生忘れられない旅が待ち受けていることをまだ知らなかったのです。

わくわくしながら朝から成田空港に向かい、仁川国際空港の乗り継ぎで早速中央アジアへ出発。およそ5時間の旅で現地時間21時頃カザフスタンの旧都アルマトイに到着。時差が4時間あるため日本時間25時で、眠気と戦いながら空港内の看板にあるロシア語とカザフ語の文字を目の当たりにし興奮を隠せませんでした。すぐにでも町に出てみたかったが、その前にまずは両替。日本では現地通貨「テング」が手に入らなかったため、円安で泣きながらも成田空港で米ドルに両替してから現地空港でテングに替える必要があります。その後、タクシーでアルマトイ市内へ。

アルマトイ (Алматы) はソ連時代から1997年まではカザフスタンの首都で人口も200万近く、カザフスタンの最大の都市です。新都のアスタナに比べて比較的ソ連時代の建築物が多く残っています。中国とキルギスタンとの国境も近くて、顔を上げれば地平線の果てに天山山脈が見えるぐらいです。シルクロードの遺跡が多いと知られるウズベキスタンに比べて日本であまり知られていない印象ですが、町の近くには北米のグレートキャニオンを彷彿させるチャリンキャニオン、山中の秘境のコサイン湖、標高2500メートルのビッグアルマトイ湖など、絶景のスポットに囲まれている自然豊かな町で、今回の旅も想像以上に映える写真をス

マホに収められました。旅行中は中国、韓国、香港、インドからの観光客に逢いましたが、日本人の観光客には1人も遭遇しなかったのが少し残念でした。これがきっかけでより多くの日本の方々にカザフスタンの魅力を知ってもらいたいと思います。

ホテルにチェックインした時は既に現地時間23時でしたが、初めての中央アジアなので早速周りを散歩することにしました。豊かな自然環境に囲まれたアルマトイの町は発展していて暮らしやすそうな都会です。市内の道端にスクーターを多く見受けられ、配車アプリのYandexやJET、Whooshなどのアプリで予約すればすぐスクーターが使えます。もちろんYandexのタクシーも安く利用できます。6,7キロの移動も大体500円で行けますので非常に便利です。ただ1点不便なのは、そういったアプリの利用にはほぼクレジットカードの登録が必要で、日本のカードで登録できない場合があることです。実際私が使用しているクレジットカードが何故か拒否されたため、現地での支払いほとんど現金でした。またカザフスタンではKaspiという万能アプリがあり、そのアプリで簡単に他の人に送金できるので、地元の人ほとんどそれを使いお金のやり取りをしているようです。旅行中一回Yandexのタクシーに乗った際、手元に1万テングの札しか持っていなかったため、1900テングの代金をそれで支払おうとしたら運転手さんに難色を示され、Kaspiの番号を教えるからあとで送金してと言われました。Kaspiの登録にはクレジットカードなどの情報が必要で結局登録できず無銭乗車になりかけましたが、幸いカザフスタンに留学したことのある友人に頼み後日無事に支払うことができました。

しばらく散歩して近くのスタローバヤ(大衆食堂)でシャーシリックを堪能したあと、翌日のバスツアーに向けて就寝。無事に1日目の旅を終えました。(続く)